

いつも心に川がある  
堀川まちづくりの会企画展

# 舟運・筏・川遊び 堀川のにぎわい

## 堀川で魚釣り

### 魚の多かった堀川

#### 堀川に鯉や鰯

『小治田之真清水』には堀留（現：朝日橋）まで鯉や鰯が上ってきたとあり、『俳諧昼寝種』には伝馬橋での句として「月見舟漕わかれくる鰯かな」が収録されている。

#### おいしい堀川の魚

「堀川及び江川に産する魚類、はえ・鮒・鰻・河鹿などは頗る美味にして、他に産するものゝ及ぶ所にあらずと云ふ」と『尾張志』は絶賛している。

#### ハゼは風味良く大きい

『尾張年中行事絵抄』には、

「堀川筋百首

遊びではなくて腹たつ女中船

一番づりのはぜのかけろく

又、当地の沙魚<sup>はぜ</sup>は、他にかはりて風味よく、大なりとかや」

とハゼを誉めている

#### 鰻が大発生

『塩尻拾遺』に、鰻が大発生して人々が桶などを持って取りに行った話が載っている。

「今年の辰2月3日、府下堀川へ細き鰻幾千万ともなく、さす汐に浮み上りし。家々より桶など持出て、すくひ取りし。前々かゝる事をきかず。おもふに、旧臘〔去年12月〕24日雨ふりし後、雨雪絶えて余寒例年より甚しかりしが、2月3日昼比より、雨降俄に春暖を覚えし。かゝるゆへに泥中に蟄せし鰻、蠢動せし折から、潮満来りてかくありしにや」

#### 元禄御畳奉行 朝日文左衛門も魚取り

日記『<sup>おうむろうちゅうぎ</sup>鵜籠中記』が今に伝わる尾張藩士の朝日文左



堀川で釣れた魚の例 左から ボラ ギンブナ オイカワ  
(小学校総合学習補助教材 CD-ROM「堀川ミュージアム」)

衛門は釣り好きだが、元禄6年(1693)6月のところに、堀川で四つ手網漁をしたと書いている。

### 名古屋名産 堀川はえ

評判の良い堀川の魚だから、商売にする人も出てきた。弘化元年(1844)4月に袋町三丁目(現：中区錦二)の丸屋庄七が堀川や荒子川で捕った銀ブナを佃煮にして売りはじめた。風味が良いと評判になり「堀川はえ」と呼ばれ、明治末まで堀川産の銀ブナを使用したという。



上：丸正の堀川はえ商標と尾張藩の佃煮商許可状  
嘉永元年(個人蔵)  
下：店先に表示されていた商品名「名産堀川はえ」

### 規制と解除

#### 堀川は夜釣りも許可

文化10年(1813)に「鷹狩の獲物となる鳥の生息に悪影響があるので、夜や未明の魚釣りは禁止する。ただし、堀川は堀留から河口まで今後は夜釣りをしても良い」という御触れが出ている。

#### 上流部で釣の禁止、日置橋下流でシジミ採取の禁止

納屋橋付近から上流の西岸は河岸蔵が建ち並ぶ流通の中心地なので、釣りやレジャー用の舟を係留することが禁止され、日置橋と古渡橋との間は汽水域に生息する<sup>しじみ</sup>蜆が多かったが、採取が禁止されていた。

しかし、嘉永3年(1850)8月には朝日橋から御船蔵(現：白鳥庭園)まで御留川(漁を禁じた川)及び殺生停止の禁を解いている。